

第三節 昭和十八年

① 昭和十八年学事暦

左記は昭和十八年の学事を諸資料から抜粋したものである。彫刻科に関する事項は岩田健氏の日記によるところが大きい。他科も大同小異だったろう。ここに激戦下時代における本校生の生活の一斑を窺い知ることができ、勿論生徒たちは種々の行事の外は寸暇を惜しんで勉強したのである。

一月 一日 元旦。学校にて式、十五分足らず。

八日 大詔奉戴日。学校にて式、のち裸体操、教練あり。
新教官山崎大佐。

十九日 解剖学、仏語、英語授業あり。西田正秋先生曰く、今は武の時代。美校に居る者しか二千年来の文化を受け継ぐ者がいないのだから、やがて来る文の時代まで頑張らねばならぬと。

一月中 美校耐寒訓練。

二十八日 耐寒訓練。七時半集合。博物館前から聚楽、不忍池、帝大病院を経て学校まで走る。

二十九日 帝大より万世橋まで走る。昨日よりさらに長距離。
三十日 同耐寒訓練。

二月 五日 日食、八分通り欠ける。

六日 彫刻科生、本郷藪蕎麦で小坂圭二の出征壮行会、ヨ

カチンを踊る。

八日 大詔奉戴日。

十一日 紀元節。

二十四、二十五日 学校で明治時代油絵卒業制作展、府美術館で同各科美術品展あり。

二十六日 大講堂で教練の筆記考査（山岸清一郎中尉）。

二十七日 工芸科教授香取秀真退官。

三月 一日～六日 本校報国隊出勤。予科から三年生までの全員が班に分かれて赤羽の陸軍被服本廠、同廠亀戸作業所、朝霞作業所へ行く。彫刻科生は朝霞で靴下五百足をまとめて括ったり、判子を捺したりの作業をして電車賃各六十銭支給される。

二日 彫刻科コンクールあり、十一時、朝倉文夫来室。

三日 勤労働員。彫刻科は朝霞へ（六人）。

五日 教練実技試験。

八日 大詔奉戴日。

十日 陸軍記念日。十時登校。この頃より学期末試験。

十九日 油画科教授藤島武二死去。

この月 各科の主任が廃止され、理事のみとなる。

四月 八日 大詔奉戴日。

十日～二十五日 各科第三年生の修学旅行（京都・奈良）実施。

五月二十七日 油画科教授南薫造辞職。

六月 一日〜四日 野営演習（習志野）。夜間訓練、水の中の匍

匍などで皆泥んこになる。

五日 山本元帥国葬。そのため十時半学校に集合、式挙
行。

十五日 身体検査。油画科の校内展あり。

二十二日〜二十七日 元彫刻科教授建昌大夢遺作展（於府美術
館）。

二十三日 査閲予行（船戸カ原）。

二十六日 学校で藤島武二追悼会。二十六日〜二十九日、遺作
展（於陳列館）。

二十六日〜三十日 各科四年生および師範科三年生は富士で野
営演習。

七月 七日 船戸カ原（新荒川大橋下河岸広場）にて教練査閲実

施。七時集合。膝撃ち。三年生は防毒面を被る。

八日 学校で午後一時より六時まで精神訓練、消防防火待
避、緊急避難訓練実施。百五名参加。

九日 同じく救護、防毒訓練実施。

十日 十八年度第一回日本文化講義。大講堂で前駐米大
使・海軍大将野村吉三郎が「私ノ見ル敵米國」を講
演。三時より体力検査、六十キロの俵を担いで走
る。M検もあり。

十三日 学校全体で午後一時より六時まで防空基本訓練。

十九日〜三十一日 健民運動夏季心身鍛練として運動場で学
徒鍛練体操実施。朝八時集合。

十九日〜二十二日 十八年度第一次集団勤労作業。校庭で防
空壕築造作業。

二十一日 学校で朝体操。次いで勤労作業。校庭で防空壕掘
り。

二十五日 学徒航空蹶起大会（於後楽園運動場）に本科四年
生、師範科三年生（九月卒業見込み者以外）参加。

八月 二日〜六日 勤労動員。東京都砦大緑地（予科、本科一

年、師範科一・二年）、同神代大緑地（本科二・三
年、師範科三年）。テニスコートの草取り中、監督が
余り威張るのでみな作業を止めてしまう。

九月二十三日 徴兵猶予中止の通告。卒業式。

十月 四日 開校記念日にて休日。

十日 彫刻科で兵役につく生徒の壮行会挙行。

十二日〜三十日 彫刻科生は十条の兵器廠へ勤労動員。梱包
作業。

十六日 学校全体の出陣生徒壮行会挙行。

二十一日 出陣学徒壮行大会（於神宫外苑競技場）。

二十五日 靖国神社臨時大祭。
三十日 彫刻科生は芝浦で荷物運搬作業。

十一月 一日 勤労作業実施のため実技および学科休講中のとこ
ろ、この日より平常通り授業開始。

九日 彫刻科生勤労動員手当て一日六十五銭支払われる。

十一日〜二十日 修学旅行（三重・奈良・京都地方古美術実
地見学旅行）。約百名が、死ぬ前に是非、と参加。

京都で解散後、各自帰省してから兵隊に行く。
二十四日 学徒出陣のため三年生に仮卒業証を、二年生以下に
仮修了証を授与。

十二月 一日 第一回学徒兵入隊。校内はガランとしてしまふ。
四日および十一日 十八年度体力章検定会（於運動場）。

全員参加。合格者には体力章を与え、検査結果は体
力手帳に記入。それを入隊のとき持参することにな
っていた。

二十四日 彫刻科コンクールあり。

② 職員その他（主に「辞令簿」による。）

昭和十八年

一月九日 嘱託六角紫水は御用済みにつき朝鮮総督府より楽浪漆
器整理事務嘱託を解かれる。

同月十五日 教授藤島武二は勲二等に叙せられ、瑞宝章を授与さ
れる。

同月十九日 北沢国民学校訓導山本隆亮（大正十二年国画師範科
卒）は師範科および教員志望生徒のための芸能科教育における
「形体美の研究」授業を臨時嘱託される。

同月二十八日 講師山岸清一郎依願解嘱となる。

同月三十日 講師杉田精二および田辺孝次は用済みにつき解嘱と
なる。

二月一日 工芸技術講習所助教授山脇洋二は本校助教授兼任を命
ぜられる。

同日 商工省工芸指導所技手鈴木三男（昭和二年国案科卒）
は国案部生徒のための偽装に関する特別講義を一カ月間臨時嘱
託される。

同月九日 陸軍中尉湯浅長義は体操、教練担任講師を嘱託され
る。

同月二十七日 教授香取秀真、依願免官となる。
三月八日 教授森井健介は教務課長を免ぜられ、文庫課長・教務
課長兼勤を命ぜられる。教授多賀谷健吉は生徒課兼勤を免ぜら
れ、教務課長を命ぜられる。助教授入谷昇は彫刻科理事を免ぜ
られ、同科塑造部理事を命ぜられる。同羽下修三は同科木彫部
理事を命ぜられる。

同日 教授小泉勝爾、同田辺至、同関野聖雲、同海野清、同
石田英一、同高村豊周、同六角紫水、同松田義之、助教授森田
武は文庫委員を命ぜられる。

同月十七日 講師湯浅長義、依願解嘱。
同月十八日 教授藤島武二（油画科主任）は従三位に叙せられ
る。

同月十九日 藤島武二は脳溢血のため昭和十六年五月以来加療々
養中のところ、本日死去。二十三日に青山斎場にて葬儀が行わ
れる。

同月二十九日 左記の人々が本年度講師を嘱託される。

東京女子師範学校教授	尾上	八郎	師範科書道
帝国芸術院会員			一週二時間
京都府工業奨励館長	松田竹太郎		同科工学